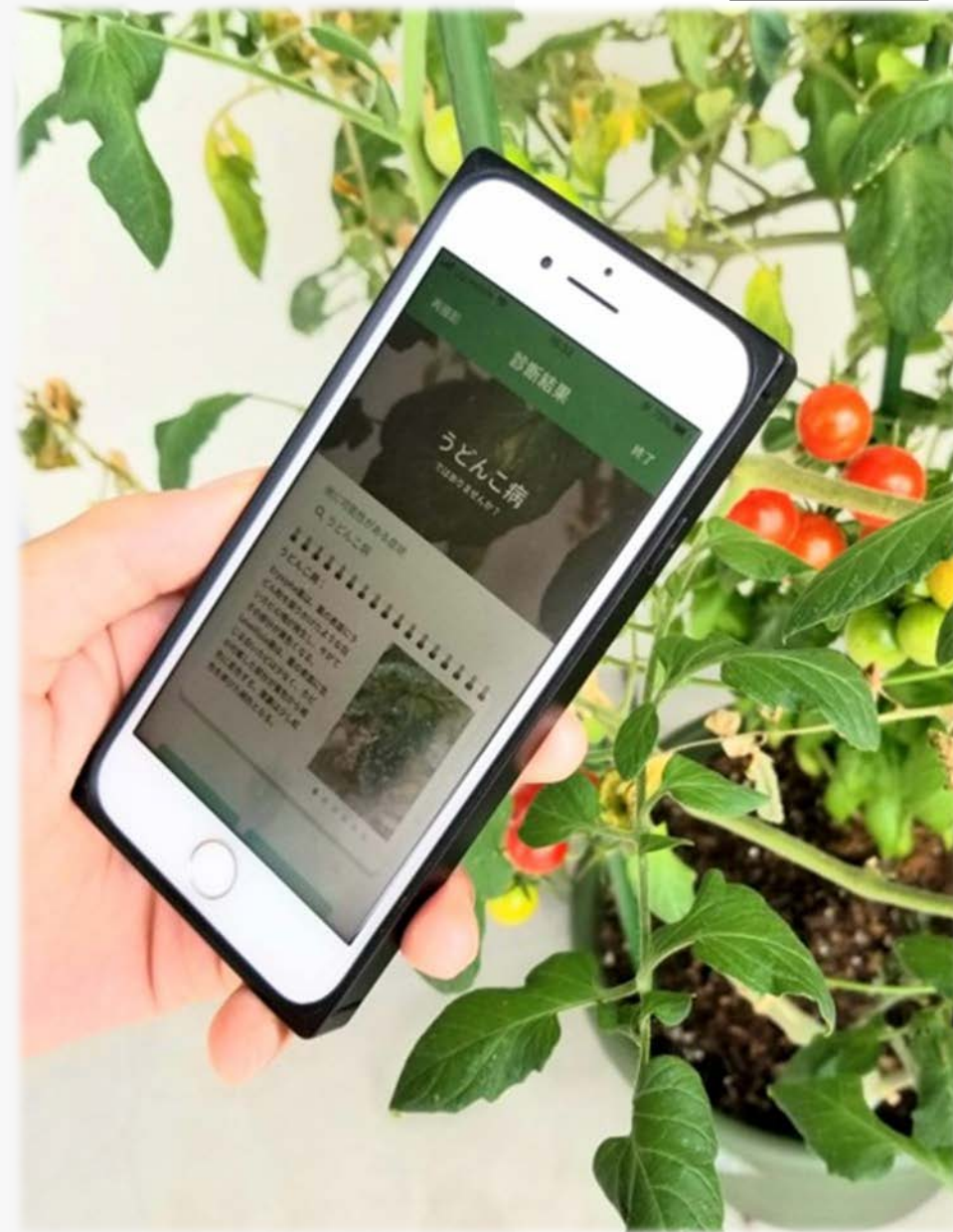


防除DX実現に向けた AI活用について

株式会社ミライ菜園
代表取締役 畠山友史



VISION



Sustainable agrifuture.

農業の持続可能なミライを創る

VISION

Sustainable agrifuture.

農業の持続可能なミライを創る



代表取締役 畠山友史
大手電機メーカー勤務ののち
ミライ菜園設立
工学博士（ロボット工学）



農業の持続可能性向上に向けて最初に取り組むこと

病害虫被害の抑制



何に困っていますか？

病虫害被害



イチゴ育苗中の炭疽病は、被害が大きく定植にも影響する！

野菜の

病気



害虫



収穫の最大**40**%が失われている
→食料生産における甚大なロス！

気候変動の影響が拡大

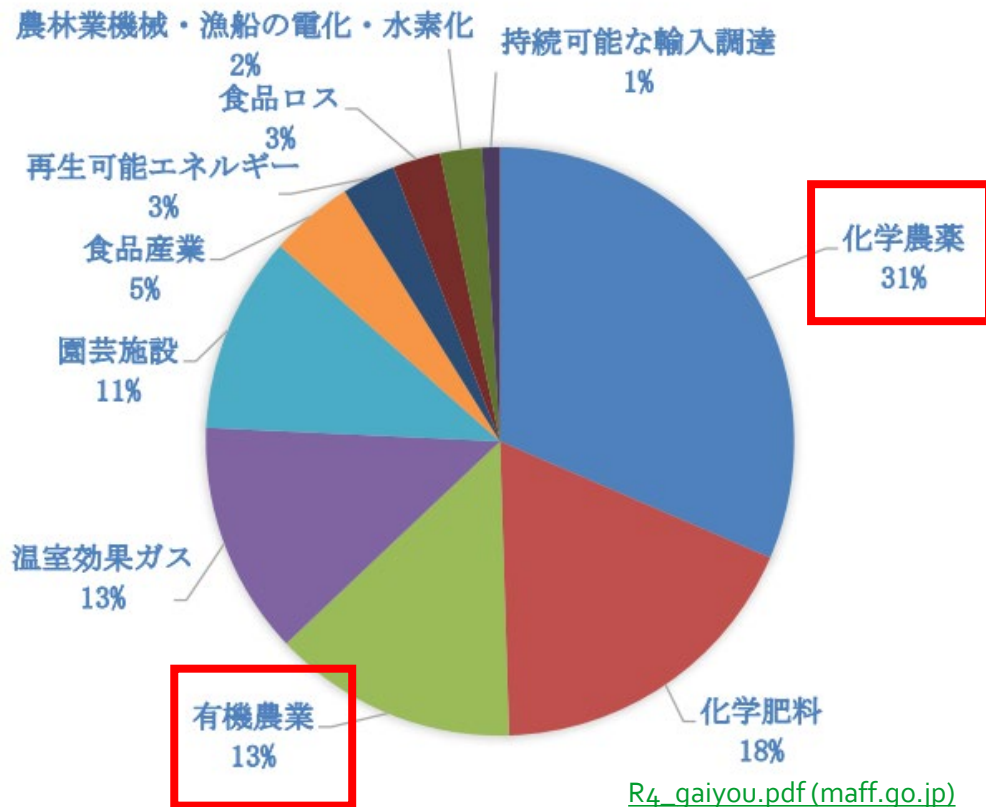
病害虫の発生タイミングが不安定になった

いつ予防すればいいか分からない

勘と経験が通用しない



みどりの食糧システム戦略で 現場が期待すること



化学農薬低減への期待が31%

現場で必要とされている スマート農業技術

順位	技術名	票数
1	1度の飛行で広範囲に散布できるドローン	277
2	株間、畝間除草ロボット	266
3	低コストのり面自動草刈機	241
4	病害虫・生理障害発生予察技術	234
5	病害虫診断・発病リスク診断技術に基づくスポット農薬散布技術	213

スマート農業技術の開発・改良に関するアンケート調査の結果について：農林水産技術会議 (maff.go.jp)

病害虫関連の合算で447票！

予察AI、診断AIなど
防除DXサービスが
現場から求められている！

自治体、JAとの連携を強化しながら事業を進めています

あいち農業イノベーションプロジェクト



ぐんまAgri × NETSUGEN 共創事業



愛知県農業総合試験場との連携



連携



ミライ菜園

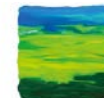
JAアクセラレーター第5期



【主催・スポンサー企業等】



AgVenture
Lab



農林中央金庫

